

麻に つるる



ノルマンディーの亜麻畑（青花・白花）

Photo by T.Iida

日本麻紡績協会

ASABO / Japan Linen, Ramie & Jute Spinners' Association

麻につる

目次

・ 業界レポート	2016 年リネン事情	・ ・ ・	2
	2016 年ラミー事情	・ ・ ・	3
・ 亜麻・苧麻統計表		・ ・ ・	4
・ スペシャルレポート (1)	日本伝統の技術美 「小千谷縮」 小千谷織物同業協同組合	・ ・ ・	5
・ スペシャルレポート (2)	伝統の継承と変化への対応 株式会社大長	・ ・ ・	7
・ スペシャルレポート (3)	ミラノウニカ出展の Review 中伝毛織株式会社	・ ・ ・	9
・ 会員企業紹介	株式会社 AKAI	・ ・ ・	10
	アトモスフェール・ジャポン株式会社	・ ・ ・	11
	東和株式会社	・ ・ ・	12
・ 新会員企業紹介	株式会社関東小池	・ ・ ・	13
	株式会社ワールドプロダクションパートナーズ	・ ・ ・	14
・ — 欧州麻連盟 (C.E.L.C.) ・ 2017SS リネン用トレンドカラー情報 —		・ ・ ・	15
・ 活動レポート	❖中国麻紡績行業協会 国際会議報告	・ ・ ・	17
	❖中国 江西省 国際麻会議 (政府主催)	・ ・ ・	18
	❖亜麻 (上海) 国際フォーラム	・ ・ ・	18
・ 会員企業一覧		・ ・ ・	19
・ 会員企業ネットショップ URL 一覧		・ ・ ・	20

業界レポート

2016 年リネン事情

□ 欧州リネン

2015 年リネン原料（Flax）の主要産地であるフランス、ベルギー、オランダ 3 ヶ国での作付面積合計は前年度より 14,000 ha 増加し、95,000 ha を計上した。2016 年度も、引続きリネン素材に対する旺盛な買付により、推定値約 15% アップの 110,000 ha を見込んでいる。世界的な異常気象や天候不順によりたとえ作付面積を増やしても原料生産高がそのまま増加するとは限らないのが、Fragile な亜麻作物栽培の難しさである。いずれにせよ、欧州農業での古い諺、June makes the Flax と謂われるように 6 月の天候がその量・質を決定する。

< 5 ヶ年 作付面積、原料・原糸生産量、価格推移 >

主要 3 ヶ国 (フランス・オランダ・ベルギー)	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年
作付面積 (ヘクタール)	67,800	74,400	81,200	81,000	95,000	110,000
原料生産数量 (トン)	62,500	97,100	132,400	123,500	130,000	135,000
原料価格 (€/Kg)	1.93	1.7	1.78	2.1	2.35	2.5 ~ 2.6

* 原料生産高：Long fibres - Scutched line

* 2016 年度の数字は 予測数字



□ 中国リネン

- ① 紡績設備： 廃業と新規設立が頻繁になり引続き潤紡績生産能力は 70 万鍾程度を維持し、実質稼働も昨年の 55 万鍾を維持した模様。
- ② 原糸生産： 昨年に引き続き、過去最高の年間 8 万トンを予測。
- ③ 価格動向： 欧州リネン原料の値上げが昨年まで続いていたが、今年は通貨 RMB 安に伴い、若干の値下げ傾向である。

業界レポート

2016 年ラミー事情

1. ラミーの栽培状況について

中国の経済発展に伴い中国の農業政策、農村構造も大きく変化し、ここ十数年来ラミー栽培面積の減少は続いている。長年のラミー市況低迷から農作物としての相対的な価値が下がる一方、人件費をはじめ各種栽培コストがアップした為、ラミー栽培の放棄を選択する事例が顕著にみられ、栽培面積の減少が続いている。背景には、他の農作物のような最低保証が無い事も大きな要因と思料される。

産地としては湖南省、四川省、江西省、安徽省に限られている模様。

また、ラミー農家と生産メーカーをつないでいた原草の流通業者が壊滅状態になり、生産メーカーが安定した原料を購入できないという構造的な問題も内包する。結果、需給バランスが崩れ価格が高止まりの状況で、原料メーカー、紡績各社をはじめ川下までの各段階で大きな影響が出ている。

現状、抜本的な打開策はないが、江西省新余市では地元政府が産業振興のためラミー栽培面積の拡大を政策的に推進していると聞き、この様な動きが上記他産地へ波及することに期待する。

2. ラミーの栽培面積及び生産量について（推定）

正確な情報が取得できないが、各方面の情報から類推すると栽培面積は以下。

湖南省＝約 1 万畝（667 ha）

四川省＝約 5 万畝（3,333 ha）

江西省＝7～8 千畝、及び安徽省で少々（面積不詳）

本来栽培面積から大凡の生産量は算出可も、抜根はしていないものの管理状態が良くな
く生産に結びついていない畑もあり、定量的な推定が難しいのが実態。

現在使用しているラミー原草はほぼ往年収穫されたものと思われる。

3. 原草価格について

前述通り専門の原料商がなくなったため、農家と加工業者が直取引を行う様になり、原草価格については不透明な部分が多い。一方トップの価格は、一昨年の 1 年間で 4 割程度上昇し、その後高止まりの状況にある。

また、原料での品質差が価格に反映されるはずであるが、グレード分けされずに出回っており、糸での安定した品質確保ができず、多々問題になっている。

4. 2016 年の見通しについて

現時点の判断としては、以上の厳しい環境が画期的に改善されるとは考え難い。農家は各種コストが上昇する反面需要が見込めない為、栽培を放棄しはじめており、原料商は商談が成立せず扱い高が減少し淘汰され、他方、ラミーメーカーはコスト上昇による商品の販売が鈍り経営に支障が出ているという負のスパイラルに陥っているとの見方が強い。因って、現状では栽培農家の収入がある程度改善しても、栽培面積が大きく回復することは考え難い。

各社とも個々の対応策を模索しつつ、市場動向を注視している。

亜麻・苧麻統計表

(単位：千円)

品目	輸入糸					
	亜麻糸		苧麻糸		計	
平成年(1～12月)	数量 (t)	金額	数量 (t)	金額	数量 (t)	金額
平成 20 年	972	1,078,211	271	240,994	1,243	1,319,205
平成 21 年	805	752,842	247	198,107	1,052	950,949
平成 22 年	903	762,908	298	249,500	1,201	1,012,408
平成 23 年	1,315	1,243,565	338	269,174	1,653	1,512,739
平成 24 年	1,172	1,099,260	262	232,549	1,434	1,331,809
平成 25 年	1,574	1,730,654	294	327,287	1,868	2,057,941
平成 26 年	1,452	1,826,471	315	380,177	1,767	2,206,648
平成 27 年	1,512	2,149,292	307	448,620	1,819	2,597,912

(注) 財務省日本貿易統計による。

品目	輸入織物						輸入ハンカチ	
	亜麻織物		苧麻織物		計		亜麻・苧麻ハンカチ	
平成年(1～12月)	数量 (千㎡)	金額	数量 (千㎡)	金額	数量 (千㎡)	金額	数量 (千枚)	金額
平成 20 年	7,858	2,569,593	1,053	234,836	8,911	2,804,429	179	71,865
平成 21 年	6,224	1,769,982	995	275,402	7,219	2,045,384	331	62,549
平成 22 年	6,244	1,827,638	618	178,334	6,862	2,005,972	219	32,372
平成 23 年	6,954	2,351,660	928	247,210	7,882	2,598,870	114	25,943
平成 24 年	6,702	2,330,368	646	204,931	7,348	2,535,299	124	36,842
平成 25 年	7,134	2,878,201	717	239,543	7,851	3,117,744	81	40,658
平成 26 年	7,365	3,236,254	687	274,121	8,052	3,510,375	85	44,298
平成 27 年	6,822	3,258,646	796	289,496	7,618	3,548,142	87	38,013

(注) 財務省日本貿易統計による。

スペシャルレポート (1)

～ 日本伝統の技術美 「小千谷縮」 ～

小千谷織物同業協同組合

□ 小千谷縮の誕生

この地で織物が始められたのは千数百年前といわれており、種々の立地条件と自然条件に恵まれて発展してきました。当時の織物原料である良質な野生の苧麻ちよまが豊富にあり、この皮を「苧績おうちみ」と言う手作業で作った麻糸で織られた織物が越後布えちごふと呼ばれ、雪深いこの地方の農家の自家用衣料として生産されていました。やがて、麻布の生産が増えるに従って流通し始め、次第に商いの布として使用されるようになりました。江戸時代の初め、小千谷に住み着いた明石の浪人によって、当時織られていた麻布に改良を行い、初めて緯糸に強い撚りをかけ、織り上げた後に小千谷独特の「シボ取り」と言う工程で仕上げをし、縮ませてシボしわ（皺）を出す夏向きの着尺地として、快適な縮布が作りだされました。「シボ」を表現することが、従来の麻布に画期的な成果をもたらし、「小千谷縮」と呼ばれて、魚沼地方一帯に広く普及。元禄期には江戸幕府が一般武士の式服と定めたこともあって需要は激増し、縮問屋が成立しました。その後は、享保の改革、天保の改革等を通じ、段々と衰退をしていきます。



明治期に入りますと、紡績糸の出現や一貫作業も行われるようになり、生産高は飛躍的に増加し、現在のような小千谷縮商品の誕生になりました。

□ 小千谷縮の技術は「世界無形文化遺産」

小千谷縮の特徴はなんといっても、その肌触りの良さにあります。強く撚りをかけた糸が元に戻ろうとする性質を利用して布面に細かいシボを立てることで、布と肌の間に空気が通り、さらっとした着心地が生まれます。

昭和30年に小千谷縮布が、国の重要無形文化財に指定され、この頃より縮の伝統技術を生かし、緯総よこそうがすり縞主体の小千谷縮・小千谷紬が産地の主力製品となり、市場で好評を博し、小千谷織物の名を大いに高めました。そして昭和50年には、産地の主力製品である小千谷縮・小千谷紬が国の伝統的工芸品に指定され、伝統織物産地としての地位を確立しました。



小千谷縮の技術は、平成21年9月世界的に価値の高い無形の文化財を守ろうという「ユ

ネスコ無形文化遺産」に、日本の染織では第1号で登録され、厳しい条件下の徹底管理が行われております。

□ 新分野への挑戦

和装需要の減少が続いてきた状況から、産地も大きな危機感をもち、伝統的な和装分野を守りながら、原点に戻って小千谷織物を「ぬの」として生活者に使ってもらえるようにするには、どうしたらよいのかを考えてきました。

産地がどういう状態であるのか。産地が持っている資源とは何か。商品開発を行うにはまず、自らを知ることが大事だということを認識することから始めました。

具体的には、地域が持っている現状資源、技術・素材・情報・人的資源の把握から始め、時代動向・生活者動向・市場動向等を調査して、そこからの可能性を探ること。また、自ら、マーケティング力・商品企画力を養うことに重点をおきました。産業としての再構築＝生活者に近づく産業への発想転換。もうひとつは、産業の「質的成長の軸」となる・新商品開発と新流通開発。産地特性を活かした生活者に近づく共同システムの構築でありました。



開発商品の領域テーマとしては、非常に厳しい分野ではありますが、比較的新規参入しやすい男性ファッションに的を絞り、・ブランド力の構築・情報発信システムの構築・売り方の開発・これらを成立させる共同システムづくり。また、地域全体の複合観光産業戦略の一貫として「小千谷織物」を位置づけることも課題としました。これらの課題を踏まえて商品開発に挑戦しております。

商品開発戦略の方向性として、産地で生産されている絹・麻・綿織物を自由な発想で、「ぬの」としてとらえ、時代・健康・高齢者・流通・ファッション等のテーマとをつなぎ、「新しい暮らし方」を創り出す戦略で、商品開発テーマを「働く男たちのためのワークウェア」として、伝統に裏付けられた手技、天然素材ならではの優しさをベースに、産地として始めての洋装ブランド「フリーフロム」を誕生させました。

□ ブランドショップの開設と織物文化の継承

念願でありました「フリーフロム」ブランドのショップ「匠之座」、織物体験や手造りの良さを伝える「織之座」を小千谷市伝統産業会館内に開設することができました。販売と情報発信の場ができたことで、産地の織物を色々な形で生活者に理解してもらい、また、ビジネスとしても成り立つ出発点として位置付けることができました。若い人たちからも手仕事の良さを理解していただき、織物産業に従事していただけるのではないかと期待をいたしております。産業として成立させていくことはもちろんのこと、地域の文化産業として未来に伝えていくことが、私達に課せられた使命であると思っております。

これからもクリアしなければならない課題は、数多くありますが、手仕事の良さは、美しいもの、使い勝手の良いもの、人に喜んで使ってもらえるものを作ろうという心が、その根底にあります。「人々の生活」も非常に変化してきております。そのような中で、作り手の思いが直接伝わる物作りを中心に考えて、心の満足を実現させるそのような商品を提供していきたいと考えております。

スペシャルレポート (2)

伝統の継承と変化への対応

株式会社大長
代表取締役 大橋 富美夫

< 創業 >

当社は、近江上布の産地として知られる湖東地域で明治 20 年（1887 年）、曾祖父の大橋長兵衛が、主に苧麻（ラミー）・大麻（ヘンプ）を用いた織物の整理加工業として創業しました。

< 転機 >

1983 年、琵琶湖の赤潮対策のため製造業者に排水処理が義務付けられ、その時の当社の規模からすると大変大きな出費となるため、事業を方向転換するか廃業するかまで悩んだ末、「これを機に大規模な設備投資も併せて行う」という積極策を選びました。

< 変化への対応 >

設備投資により生産能力が倍増し、当社として初めて地元以外でも本格的な営業活動に奔走しました。

そのおかげで市場の生の声に触れ、自社の足りないところに気付くことができました。

まず、織物業界の流れが和装から洋装へと予想以上に早く移っていたこと、それに伴い麻の素材もヨーロッパ原産の亜麻（リネン）の使用が増えていました。当社は伝統的な苧麻中心でしたから早速、亜麻の生地に適した亜塩素漂白機を導入しました。また、生地幅の幅も洋装化によって広幅化したため、それに合った設備を増やしていきました。

当時すでに国内の繊維業界は低成長期を迎え、海外進出が始まっていましたが、麻の市場は極めてニッチだったため海外進出が他の繊維より遅れていて、厳しいものの「特殊加



工のできる設備投資をすれば手応えがある」状況でした。そこで当社は「特殊加工における国内トップ」を目指すべく、設備投資を増やしつつも、一方では多品種小ロット生産に即応できるようコンピューターによる工程管理を進めました。それによってお客さまのさまざまな要望に応え、安定した製品づくりができる体制を整えました。



< 伝統の継承 >

当社では私を含め6人の伝統工芸士（近江上布の仕上げ部門）がいます。濡らした生地をしぼ取り板で揉みあげて生地に“しぼ（楊柳しわ）”をつけ、独特の風合いを生む手技です。そんな「近江ちぢみ」の魅力を伝えるため、毎年、東京や大阪のデパートや地元の近江商人屋敷で「近江ちぢみ」の手もみ実演を披露しています。現在は、手もみのみで仕上げる製品は少なくなり機械も使っていますが、製品のいろいろな所に“匠の技”が今でも必要です。伝統の技を絶やすことなく継承して、機械化との融合を図ることが大切だと思っています。



< そして未来へ >

繊維業界全体では相変わらず厳しい状況が続き、織物から縫製まで輸入品頼りに拍車が掛っています。

でも、国内に3,000社以上あるとされるアパレルメーカーの中には「海外調達品では得られない製品」にこだわり、特色ある技術力を持つ国内企業を探している所もあります。うまくマッチングできれば明日につながるでしょう。

近江商人は堅実に本業を守りながらも常に自己変革を怠らなかった。その精神を学んでいきたいと思っています。

スペシャルレポート (3)

ミラノウニカ出展の Review

中伝毛織株式会社
常務取締役 中島 啓介

一宮地場産業ファッションデザインセンター
事務局長 山田 克博

これまでミラノウニカ（MU）の出展は欧州の企業に限られていましたが、一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構（JFW）や日本貿易振興機構（JETRO）のご尽力により、2015年9月展から日本企業にも出展が認められました。その当初より公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）と協力し、尾州産地の素材を世界に発信するため、MUに参加しています。

日本企業のブースエリアは、「The Japan Observatory（日本を俯瞰する）」at MUとして、世界に Made in Japan をアピールする絶好の機会を得、出展各社が選りすぐりの素材を提案しています。我々尾州も得意は毛織物ですが、長年培ったその技術を駆使し、麻、綿、絹、化学繊維と様々な素材の特徴を生かし、尾州ならではのモノづくりで、「尾 BISHU JAPAN」として世界に驚きと価値を産み出しています。特に弊社では、染色、織・編み、整理加工とグループで一貫生産を行っており、Made in Japan にこだわったモノづくりで、国内でも高い評価を得ています。MUの2016年2月展では、横編みのニットが大変好評でした。横糸に麻などを使ったバリエーションと、全体の軽さや柔らかさ、織物にない特徴が注目を集めました。ほかには、カラミ織や尾州ならではのボリューム感のある素材も人気でした。

今後も原料の特徴を生かし、染色、織・編み、整理加工の匠の技術で、尾州のこだわりの Made in Japan を世界に発信し、ファッション産業に貢献するとともに、世の中の暮らしを豊かにしていけるよう精進してまいります。

< MU 2016 年 2 月展 >



日本ブースの
トレンドコーナー



商談風景



インデックス
サンプル



尾州ブース



尾州ブースの
ディスプレイに
立ち止まるバイヤー

会員企業紹介

株式会社 AKAI

代表取締役社長 赤井 彌一郎

創業は1912年です。

以来 麻〈主としてLinen（亜麻）・Hemp（大麻）〉を扱ってきました。

今日も麻専業で他の繊維は扱っておりません。

麻のシェアは多くの種類の繊維の中でも希少なニッチ市場を形成しております。

時代の変遷とともに扱い商品・お客様・供給者様も随分変わってきました。

特に原料・原糸の供給は内地紡績会社がりネン糸製造を中止した事により1960年代後半より本場ヨーロッパの製造会社から直輸入を始めました。

Flax（Linenの原料）からLinen原糸・Linen織物・Linen編物・Linen製品まで時代が要求する分野に適合した商品の開発に努めてきました。

1941年Linen織物製造を目的に「京都麻織物（株）」を創業、2011年Linen製品製造を目的に「上海赤井服飾有限公司」を開設し現在両社ともその目的に従って運営しております。

科学に根差したinnovationの21世紀ですが同時に地球環境を守り自然物が互いに適応しながら生態系の存続を確保しなければなりません。

再生可能エネルギーという観点からもLinenは農産物であり廃棄物を一切出さない再生可能繊維です。

こういった意味合いで今後もこの事業を継続していく事は意義深いと考えております。



京都本社エントランス



京都本社1Fロビー

アトモスフェール・ジャポン株式会社

代表取締役 笹木 美保子

麻の魅力にとりつかれて早 15 年あまり……

自然素材の機能性をよくよく調べてたどり着いたのが “麻” でした。

もともとはホテルコントラクトビジネスでかかわったベッドリネンやウエアー、
テーブルクロス企画デザイン。

クライアントとの話とラグジュアリーホテルを数多く経験するうちに家庭での
心地よい過ごし方を見直したいと考えるようになりました。

極上の麻で創るライフスタイルブランド “GRAND FOND BLANC” を
今年春デビューさせました。

このブランドはすべて麻（亜麻）素材。2015 年秋に業界メディアやプロの方々に
お披露目させていただき、ご意見、反響の結果今年のデビューに至りました。

お蔭さまで今年 3 月原宿での展示会も成功を納めました。

これから皆様が暮らしを楽しみ、素敵な日々を送るお手伝い
ができるよう、

提案していきたいとおもいます。

そのためにも皆様のご指導、よろしくお願い申し上げます。

<麻へのこだわり>

人一倍の麻への執着—この目と肌と指で確認し、モノづくり
へとすすめてまいります。

<企業理念>

仕事は楽しく、こころ豊かに！

<会社概要>

設立 2010 年 8 月

資本金 1,000 万円

事業内容

- ・ コントラクト事業
ホテル・レストラン等ベッドリネン・
パジャマ・テーブルクロス・
ナプキン等リネン類企画販売
- ・ リテイル事業
オリジナルブランド
GRAND FOND BLANC
(グランフォンブラン)
百貨店・セレクトショップ・
WEB サイト販売



東和株式会社

代表取締役社長 佐藤 恵一

＜会社の沿革と概要＞

1906年（明治39年）に「佐藤洋服店」を本地（本宮）で創業。当時は「掛け接ぎ」や「お直し」を主とし、軍服の縫製も行っていました（手縫いが主体の時代）。当時、アメリカや日本の首都圏でも「縫製工場」が操業され、「これからは縫製工場の時代」との思いで、昭和16年5月に仙台陸軍階公社の「本宮軍服工場」として量産の縫製工場を創業（洋服店で稼いだ資金を全て工場につぎ込んだスタート、経営を安定するまで何年も掛かったとの事）。昭和22年8月、終戦により「本宮被服」として操業を再開し、昭和23年12月に「東和被服工業（株）」に改称。平成4年10月に「東和株式会社」に改め現在に至っております。

＜麻への関わり＞

夏制服の生産をさせて頂いております。麻は通気性がよく、速乾性も抜群です。ヨーロッパでは、夏場のスーツは麻（若しくは麻混）が主流です。特に、日本の夏は湿気が多く、近年は高温多湿の亜熱帯地方と言っても言い過ぎでない環境になりました。これからも「夏服は麻」を基本に操業を貫いて行く所存です。ご指導のほど、宜しく申し上げます。

＜企業理念＞

我々グループはお互いの人格を尊重し合い、信頼を基礎として自己研鑽に励み、世界の東和グループを目指します

＜社是＞

- ・ 強く 仲良く 逞しく生きよう
- ・ 物づくりを通じて人造りをしよう
- ・ 世界のファッションを創ろう
- ・ 地域社会に貢献しよう

＜会社概要＞

設立：昭和23年12月

資本金：4500万円

社員数：135名



新会員企業紹介

株式会社 関東小池

代表取締役 金原 光宏

消防被服の専門メーカーとして、神奈川県を中心に全国の消防局、消防本部に活動服や救助服、救急服等を納品させて頂いております。消防資機材やセキュリティー商品、消防設備点検等も取り扱っております。各消防の様々なニーズを製品開発につなげることで、安全性・快適性の向上を目指します。

<企業概要>

創業 昭和 24 年 1 月 8 日

設立 昭和 52 年 1 月 8 日

資本金 15 百万円

従業員 23 名

メールアドレス info@kantoukoike.co.jp

<麻との関わり>

全国の消防局、消防本部向けに麻素材を活用した夏服を製造、販売しております。

麻は通気性や清涼感等、機能的に長けているのみでなく、着心地や高級感にも優れています。

<取扱商品>

消防被服全般（活動服、救助服、救急服、感染防止衣、防寒ジャンパー等）

消防資機材全般（毛布、簡易トイレ、空気呼吸器等）

消防設備保守点検



新会員企業紹介

株式会社ワールドプロダクションパートナーズ

代表取締役社長兼

株式会社ワールド執行役員 松原 正幸

当社は株式会社ワールドの100%子会社としてワールド全社の素材や製品の仕入調達機能を担っております。

グループでは国内に縫製・編み・染色等10工場を保有しております。

ファッション産業においてはお客様に魅力的な商品をお買い求め頂く為の商品開発力が改めて問われていると思います。

日本麻紡協会への入会を通じ商品開発のキーディヴァイスである素材開発に更に注力して参ります。

社名 : 株式会社ワールドプロダクションパートナーズ

設立 : 1999年10月29日

資本金 : ワールド100%出資

従業員数 : 256名(2016/3/21現在)

本社 : 神戸市中央区港島中町6-8-1

東京 : 東京都中央区晴海1-8-10

晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーX棟7F

東京都港区北青山3-5-10 ワールド北青山ビル7F

バンコク駐在員事務所 : No.952, Rama Land Building, 11th Floor, Rama IV Road,

Suriyawong, Bangrak, Bangkok 10500 Thailand

事業内容 : 衣料品・服飾雑貨の生産管理及び貿易業務



店舗



ワールドインダストリー岡山工場製ジャケット

— 欧州麻連盟 (C.E.L.C.) ・ 2017SS リネン用トレンドカラー情報 —

ENERGIZE

未来は不透明です。それは、多くの条件によって変わりうる、数多くの踏み痕のある道です。
新しい提案は、組み立て、醸成および創造の工程を経たものがもたらすものです。
「すべての花を切ることはできるが、来る春を止めることはできない」 パブロ・ネルーダ

CREATIVE TRACES Linen Trends

Spring Summer 17



ARCANE

現実を超えた、神秘的なひろがりの中でいやしに招く、色彩は、はかなく、この世にない、霊的なものになる。新しい中間色、あいまいな、冷たい：ミネラルブルー、オリゾン、アバラストー、ムーンストーン、パールスター、ピュアリネン、ベルディグリス、ミーティア。軽く、深い、クリーンな、あるいは構成された表面がピュアリネンとハイブリッドブレンドに入れ替わる。

CAFE' SOCIETY

スタイルとエレガンスを持った、生き生きとした強さ。予想もできない薄明りに驚かされる豊かな色の幅：赤みがかった紫、ビリヤードグリーン、深い影、雲、朝やけのバラ色、ラッカー、夕暮れのブルー、イクリプス。モダニストの精密さ、明確な形、彫り刻まれた立体感。マイクロ繊維の幾何学模様、マクロ幾何学プリント、ジャカード、ソフィストケートされたフルイドニット。金属的なリフレクション、試験的なブレンド。

DREAMLIKE

備わった美しさ：フレッシュに匂うカラーの香りにより、詩的で、やさしく、謎めく。

はじけるパステル：ヴァニラ、ピーチ、フラックスブルー、セージ、ミント、ポレン、バッド、アイス。コンテンポラリーなスタイル、フローラルプリント、レース、マイクロレリーフ、エンボス、プリーツ、クレープ。

TRAVELLERS

ヴァーチャルまたはリアルな遊牧生活がカルチャー、自然、およびアートに遭遇。

自然は豊かなカラーの素材を提供する：マホガニー、カルセドニー、カクタス、ルート、レザー、クレイ、オーカー、シダ。ドレスダウンスタイル。グラッフィックパターンが、カルチャーのモチーフをクリエイトする。毛羽立ち、しわがより、デコボコした、不規則なリネン。より糸のニット、フローティングスレッド。

ARCANE

Beyond the reality, in a oneiric dimension inviting to the meditation, colours become evanescent, unreal and immaterial. New neutrals, ambiguous and cold: mineral blue, horizon, alabaster, moon stone, pale star, pure linen, verdigris, meteor. Lightness and density, clean or structured surfaces alternate pure linen and hybrid blends

CAFE' SOCIETY

Live intensely, with style and elegance. A rich colour range, surprised by unexpected dim light: reddish purple, billiard green, deep shadow, cloud, dawn rose, lacquer, night-fall blue, eclipse. Modernist rigor, denned shapes, sculpted volumes. Micro-textured geometries, macro-geometric prints and jacquards, sophisticated fluid knits.

Metallic reflections. Experimental blends.

DREAMLIKE

Impose the beauty: poetic, gentle, curious, thanks to traces of fresh smelling colours.

Sparkling pastels: vanilla, peach, flax blue, sage, mint, pollen, bud, ice.

Contemporary style, genderless. Floral prints, laces, Micro-reliefs, embossed effects, pleats, crepe.

TRAVELLERS

Virtual or real nomadism to meet cultures, nature and art. Nature inspires rich material colours: mahogany, chalcedony, cactus, root, leather, clay, ochre, fern. Dressing down style. Graphic patterns create a collage of cultural motifs. Scratched, bunt-out, creased surfaces, slubbed, irregular linen. Intertwined knits, floating threads.

活動レポート

中国麻紡績協会 国際会議報告

トスコ株式会社 木村 健二

2015年10月11日～12日に中国麻紡績協会主催で「2015中国国際麻紡織技術設備創新検討会」が浙江省舟山市にて開催されました。中国はもとより国内外から約200人が出席。中国麻紡績協会会長許吉祥氏をはじめ、各部会、来賓の挨拶及び発表と情報交換が行われました。日本からは日本麻紡績協会の香山理事他計7名が出席。

同会議で日本麻紡績協会を代表して香山会長代行が最近の活動を紹介すると共に、日本市場における麻素材の市場動向などを説明しました。

<許会長 基調報告 要約>

今回の主な会議内容は、麻紡績の技術的研究発表、各企業が設備の更新を早く高水準で行う事の共通認識を持つための発表などです。

また、ヨーロッパや日本からのご出席、国内の主だった紡績や麻に携わる方々のご出席に感謝いたします。そしてヨーロッパと中国は交互に国際会議を開催していきます。



ASABO 会長代行報告

1. 麻紡績技術設備の更新の重要性

麻の繊維は「天然繊維の王」と呼ばれる要素がある。微生物精練方法で環境、健康に良い、現在重要視されている「環境汚染度の低さ」の考えに合致する。

2015年1-7月全国主要283社の総売り上げは302.12億元（7.5%増）、利益は15.95億元（14.1%増）、原料・糸・織編輸出額10.75億ドル（12.7%増）、製品輸出147.0億ドル（82.3%増）、固定資産投資額74.89億元（17.1%）と中国の麻業界は順調に推移。

但し、全体に技術力の低さ、設備の老朽化、自動化の遅れ、労働者の多さ、生産効率の低さ等の不安材料がみられ、早急に改善が必要。中国麻業界発展を維持し、国際競争力を更に高める必要がある。

2. 早急な麻紡績技術設備更新の建設

世界同時に発展していく中、中国麻紡協会は麻業界のサービス向上、販売、生産強化の為に麻関連企業に対し、次の事を要求する。①早急に新しい設備を導入し、効率を上げる。②早急に古い設備を更新する。③早急に自動化を促進する。④早急に技術力を上げる。⑤早急に汚染を排除し環境緑化に配慮する。

<CELC Depourcq 会長>

リネン市場は順調。昨年の栽培面積も増加している。今年の繊維の出来は良い。この20年で1haあたり40kgの生産量アップしている。CELCはヨーロッパリネンのブランド強化と情報発信に注力している。CELCの活動として2016年5月28-6月5日にパリで展示会を開催予定。10月18-21日にスペインのマドリッドで国際会議開催予定

<日本麻紡績協会 香山会長代行>

日本のリネン市場の説明と輸入量の推移。糸の予想輸入量は年間1500t。

日本の衣料市場の概況と麻の消費状況について。単体では米国に次ぎ世界第2位の消費国となっている。

その他5名の発表がありました。

活動レポート

中国 江西省 国際麻会議（政府主催）

出席：約千名、日本麻紡績協会 5 名参加

2015 年 11 月 6 日～8 日 江西省 新余市 国際会議場

①中国側 協会会長他からの基調報告

- ・麻紡績（混紡含む）40 万トン生産、堅調に推移。綿紡績はピーク時 5000 万トンから現状約 50%ダウン。
⇒麻関係純糸（リネン潤紡糸：12 万トン、ラミー純糸：1 万トン）、KINGDOM：1 万 6 千トン
- ・麻業界は従来の輸出型から内需型へシフト。この数年で内需 10%から 30%に Up。
⇒内需拡大強化策：中国アパレル Brand 育成、素材での商品開発、コスト削減。

②日本麻紡績協会からの基調報告（香山会長代行）

- ・アパレル市場は厳しいが、リネン市況は他の天然繊維と比較して堅調。
⇒過去 20 年間平均輸入潤紡糸数量 900～950t、この 5 年 1400t～1500t で推移。
- ・世界第二位のリネン消費国として、欧州や中国とのグローバル連携・協力体制が必要。
⇒中国麻業界へ要望：価格安定、供給量確保、品質向上を再度喚起要請した。
- ・ラミーも日本市場では極めて大事な素材故、中国ラミー業界との協力体制不可欠。

③各国（エジプト・韓国・台湾）からの基調報告

④江西省での麻（ラミー栽培）の歴史 2600 年間継続。今回の主要主催者 恩達苧麻有限公司 苧麻梳毛紡 1 万鍾、綿麻混紡 2 吋紡 10 万鍾。製織・染色一貫、売上 300 億円。



亜麻（上海）国際フォーラム

出席：約 130 社、日本麻紡績協会 2 名参加

2015 年 9 月 24 日～25 日 上海グランドハイアットホテル
中国 KINGDOM 社主催による欧州生産者参加の亜麻国際討論会。

- ・仏原料最新事情、欧州全体状況の報告。（栽培面積 20% Up も、天候により収穫 20%減）。
- ・中国側から①収穫量の拡大、②原料価格の安定化、③原料品質基準設定 3 点協力依頼有。
- ・日本代表（麻紡）Keynote Speech：
アパレル市場は欧州と同様良くないが、リネン糸輸入量は 6 月迄で昨年対比 130t 増（730t）、本年も 1500t 前後の輸入を見込、リネンのみ健闘と報告。

*ここ数年中国側と欧州側が、リネン原料の価格・品質問題に相反する立場での錨迫り合いが続く。

リネン潤紡糸生産量世界一を誇る KINGDOM 社の任会長は、10 月に開催された CELC（欧州麻連盟）参加の拡大国際会議（浙江省 舟山市）で討議された価格・品質等の問題を事前に把握する非常に重要な会議と位置付けた。



日本麻紡績協会 会員企業一覧 124 社、1 協同組合（五十音順）

- ア 青葉株式会社
株式会社 AKAI
株式会社アクシス
浅記株式会社
朝日加工株式会社
旭紡績株式会社
アテンション・ジャパン・プロダクツ有限会社
アトモスフェール・ジャポン株式会社
株式会社アマックスコーポレーション
アンドー株式会社
一陽染工株式会社
今村株式会社
株式会社イワセ
岩田工房
栄光染色株式会社
越前屋多崎株式会社
エップヤーン有限会社
株式会社エヌ・ピー・アール
近江織物株式会社
株式会社大志茂
株式会社おおまえ
大森然糸株式会社
小千谷織物同業協同組合
- カ カネマサ莫大小株式会社
有限会社金丸整理工業
甲株式会社
有限会社川登
株式会社カンセン
株式会社関東小池
菊高産業株式会社
岐セン株式会社
株式会社北国生活社
株式会社キョウワソーイング
株式会社金原
グロリア株式会社
桑村繊維株式会社
KB ツヅキ株式会社
株式会社ケンランド
江東製織株式会社
小泉製麻株式会社
興和株式会社
有限会社小啓修整織物
- 株式会社コトノカ
- サ サイボー株式会社
澤染工有限会社
株式会社三幸
株式会社三幸ソーイング
株式会社三和リネン
有限会社シービープランニング
滋賀麻工業株式会社
信友株式会社
シバテクノテキス株式会社
島村メリヤス株式会社
株式会社ジャスカ
聖天株式会社
新成物産株式会社
新陽株式会社
鈴木晒整理株式会社
有限会社鈴由商店
株式会社スチル
装研株式会社
- タ 株式会社ダイイチ
大恒株式会社
株式会社大長
大和染工株式会社（今治）
高島株式会社
株式会社タグチ
株式会社武田商店
株式会社タケミクロス
タッカ株式会社
辰野株式会社
田村駒株式会社
蝶理株式会社
帝国繊維株式会社
有限会社テキスタイルベガ
株式会社テザック
東興産業株式会社
稲京株式会社
東洋繊維株式会社
東洋物産株式会社
東和株式会社
株式会社トーホーユニ
トスコ株式会社
殿岡服飾工業株式会社
- 有限会社トモ企画
豊川テキスタイル株式会社
豊田株式会社
- ナ 中伝毛織株式会社
中村株式会社
有限会社ナカモリ
西陣染色株式会社
西本株式会社
西山繊維株式会社
日新実業株式会社
ニット技研
- ハ ハイランドテクノ株式会社
服部テキスタイル株式会社
平岡織染株式会社
株式会社廣瀬商会
廣瀬又一株式会社
フォワードパレルリミテッド株式会社
藤居織物工場
ブルーミング中西株式会社
株式会社穂高商事
- マ 株式会社麻絲商会
株式会社マルキン
丸佐株式会社
丸進工業株式会社
丸紅株式会社
株式会社丸萬
三重ユニフォーム株式会社
株式会社三崎
ミマス株式会社
未来テクノ株式会社
株式会社武蔵富装
株式会社むつ縫製
森菊株式会社
- ヤ 山甚物産株式会社
株式会社ユニウエル
株式会社ユニックス
- ウ 株式会社リード商会
有限会社リネット
リネンハウス株式会社
- ワ 株式会社脇本商事
株式会社ワールドプロダクションパートナーズ

会員企業ネットショップ URL 一覧（五十音順）

アテンション・ジャパン・プロダクツ有限会社	http://ajp.shop-pro.jp/
株式会社エヌ・ビー・アール	http://cadeauya.nbr.jp/
株式会社おおまえ	http://www.oomae.co.jp/main/goods/bagmenu01.htm
KB ツツキ株式会社	http://www.rakuten.co.jp/t-z/
小泉製麻株式会社	http://www.rakuten.co.jp/kirakufame/
株式会社北国生活社	http://www.amanosato.jp/
株式会社コトノカ	http://www.kotonoca.com/
有限会社シービープランニング	http://studioecru.shop-pro.jp/
株式会社タケミクロス	http://www.takemicloth.co.jp/
辰野株式会社	http://tatsuno-uniform.net/
帝国繊維株式会社	http://www.linenshop.jp/
株式会社ダイイチ	http://e-uniform.jp/index.php
トスコ株式会社	http://ramino.biz/index.html
有限会社ナカモリ	http://www.rakuten.co.jp/nakamori
ブルーミング中西株式会社	http://www.handkerchief-gallery.com/
ブルーミング中西株式会社	http://www.room-recipes.com/
株式会社麻絲商会	http://www.mashi.co.jp/
森菊株式会社	http://www.rakuten.co.jp/kijistore/index.html
株式会社ユニックス	http://www.rakuten.ne.jp/gold/merry-more/
有限会社リネット	http://www.lin-net.com/shop_linnen.html
リネンハウス株式会社	http://www.linenhouse.jp/
株式会社脇本商事	http://www.label-kun.com/

< MEMO >

平成 28 年熊本地震により被害を受けられた皆様へ
この度の熊本地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします
とともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。
被災地の一日も早い復旧と、被災された皆様が平穏な日々を取り戻せるようお祈
りいたします。

日本麻紡績協会

〒 103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL 03-3668-4641

FAX 03-3668-4642

Email jp-asabo@cb.wakwak.com

URL <http://www.asabo.jp/>

平成 28 年 5 月 19 日発行

本誌表題について

「麻につるる」は、ことわざ「麻につるる蓮（よもぎ）」に由来しています。
ことわざの意味は、「曲がって生えやすい蓬でも、真っ直ぐに生える麻の中で育
てば、曲がることなく自ずと伸びる」ということです。
転じて、善良な人々に交われば、殊更に教育をしなくとも自然に善良な人に育つ、
という意味に用いられます。
日本麻紡績協会におきましても、麻に携わることを生業（なりわい）としている
我々は、このビジネスに打ち込んでいる、それだけで真っ直ぐなどビジネス人生
を描いて、成長していくことができる、そういう想いと願いを込めて、当協会誌
のタイトルといたしました。



ラミー（苧麻）畑 Photo by TOSCO

日本麻紡績協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL: 03-3668-4641

FAX: 03-3668-4642

Email: jp-asabo@cb.wakwak.com

URL: <http://www.asabo.jp/>